

昭和48年1月13日第三種郵便認可

HSK通巻499号

発行日/2013年10月10日(毎月10日発行)

編集人/白老町手をつなぐ育成会 佐藤春光

北海道白老郡白老町字萩野310-110

TEL(0144)83-3537

会報/205

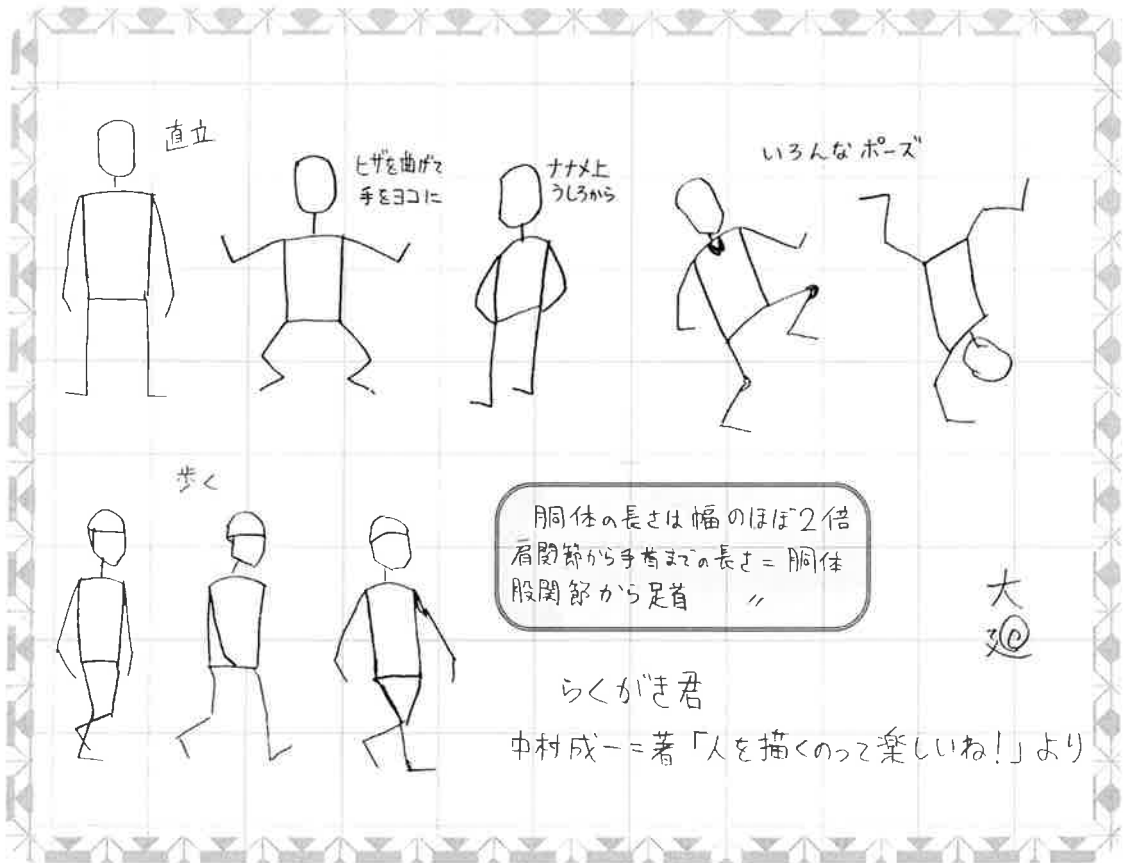
発行人/北海道障害者団体定期刊行物協会(HSK)

定価/1部100円(会費を含む)

HSK

2013.10月号

ほほえみ



白老町手をつなぐ育成会

故松本八洲遺墨展

9月9日～13日までの5日間、だて歴史の杜カルチャーセンターで松本八洲彦さんの遺墨展が開かれました。松本さんは高校時代長谷川遅牛先生（元室蘭市長）に師事し、その後千葉大学工芸意匠科を卒業し東芝（本社）に入社、デザイナーとして32年勤務した後金子聴松先生に師事し書道の道に進み、毎日書道展等に多数入選され、平成20年には毎日書道展学生審査員に選出されるなど、将来が期待された書家でしたが、平成21年に体調をくずし、伊達市で療養していましたが、平成24年8月24日に死去（行年65歳）されました。

松本さんと白老町手をつなぐ育成会が触れあったのは20年くらい前でした。白老町手をつなぐ育成会が再出発しようと決めたとき、育成会のシンボルとなるマークを作ろうと思い、考案してくださる人がいないか募集したところ、当時育成会の会長だった片山さんの親戚にプロのデザイナーがいるということでボランティアでマーク制作を引き受けてくださいました。その時はデザインを仕事にしているという事しか頭に入っていなかったため、書をやる人だったら白老町手をつなぐ育成会も書で書いていただければ、マークと文字が一体化して最高の財産になったと思いますが、今となっては残念な事になってしまいました。

この度、妹さんの加藤房子さんから、フロンティアに縁を感じて、飾ってくださいと書の寄贈がありました。「折り鶴の銀に淡雪降る日かな」という句が書かれていて立派な額に入っている書でしたので、利用者の休憩所の壁に飾らせていただきました。



右が寄贈された書と片山さん。上が松本さんが考案してくださった白老町手をつなぐ育成会のマークです。

たぶん、手をつなぐ育成会で自前のマークがあるのは白老ぐらいいと思います。このマ

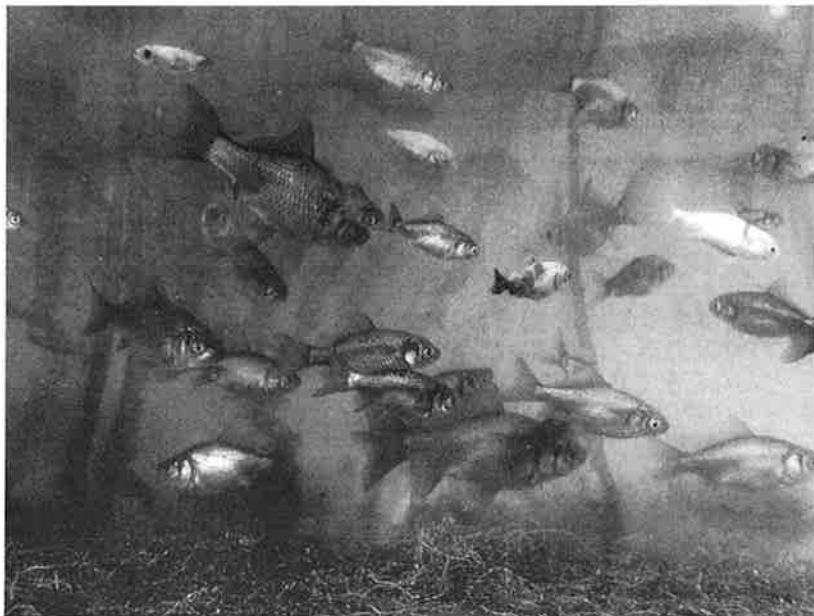
ークは毎月の会報の後ろに出てきますし、フロンティアの包装紙にも出てきます。

このマークのPは Party(集まり)、Parents(親)等の意味も込め、マークをよく見ると親子にも見えてくるので、このマークでいこうと決めたのです。

人間の縁の不思議さと、白老町手をつなぐ育成会のマークのいわれをご紹介して、松本八洲彦さんへのお礼と感謝のことばにしたいと思います。

金魚になるか

右の写真をよく見て下さい。色が白黒ですので金魚かフナかよくわからないと思いますが、間違いなく金魚の子どもなのです。しかし、春に孵った幼魚なのですが、いつまで待っても赤い色がつかず、フナから抜け出せないでいた金魚の子どもでしたが、冬を前にやっと赤や黄色が出始めたのです。いよいよ金魚になり始めたのです。



平成25年度 北海道手をつなぐ育成会

特別研修会

知的障がい者の権利擁護について学び会います。障がい者虐待防止法ができましたが、知的障がい者への虐待はなくなっていません。地域住民への啓蒙とまず自らが学ぶために研修会を北海道手をつなぐ育成会が企画しました。講師には、元日弁連障がい福祉部長の高野範城さんをお願いしました。苫小牧、北広島、帯広の3会場で開催します。高野さんは社会福祉法人ホープの監事の高野さんのいとこで増毛町出身です。

日 程

- ①10月29日(火) 14:00～16:00 苫小牧市民活動センターふれあい3・3
- ②10月30日(水) 10:00～12:00 北広島市芸術文化ホール
- ③10月31日(木) 10:30～12:00 帯広市グリーンプラザ

講 演 「権利が尊重され生きるためにできること」
～親として、みんなの活動として～

講 師 高野 範城 (たかの のりしろ) 氏

参加費 無料



野菜づくりに取り組む

フロンティア農場 藤田さんにインタビュー



●野菜づくりを始めたきっかけは？

2年前の春 斉藤昭さんが主宰する『農業塾』の基礎講座に入門。
どんなことでも学ぶという道筋が好きで畑は初心者でした。
その講座は農薬を使わない有機農法がコンセプトで座学と実技で
月に3回程度学びました。

●今年収穫した野菜は？

きゅうり、なすび、トマト、オクラ、玉ねぎ、にんにく、キャベツ、ミョウガ等です。
これからは大根やヤーコンも収穫できてきます。一緒に作業する養鶏班鈴木さんの奥さん
の知恵や助けをかりて取り組んでいます。

●販売はどこで？

茶連慈をはじめフロンティアの売店を販路にしましたが、できれば自分がお客様と対面して
商品を説明しながら売りたいですね。

●今後の展望は？

新しい品種の野菜に挑戦しホテルなどと取引して商品価値の高いものを作りたいと考えてい
ます。利用者の働く場所になり人の輪が広がって間接的にフロンティアに返ってくる様なものを
目指しているんですが……先はまだまだ長く実験段階です。

今年来た新しい職員の方々です

フロンティア

皆さんに教えてもらうこともた
くさんありますが、一緒に楽しく
作業していきたいと思います。
田代ルリ子さん

よろしくお願ひします。

堀米 玉枝さん

何もかもが初めての事で皆さん
にはご迷惑をお掛けすると思いま
すが宜しくお願ひします。
背戸田貴子さん

茶連慈

知らないところも多々あり皆さ
んにご迷惑をお掛けすることがあ
りますが、そついうところを直し
ていき皆さんと楽しく働いていき
たいと思います。
よろしくお願ひします。
神垣 光成さん

パン工房で働いています。
まだまだわからない事ばかりで
毎日が勉強の日々ですが、一生
懸命がんばります。

田川みゆきさん

ほのぼの荘

年はちょっとだけ高齢ですが気持ちだ
けはほのぼの荘の若い人についてゆこう
と時々ミーハーになって頑張っています。
毎日やんちゃなカシム(可愛い犬)と
散歩して足腰たえています。
どうぞ宜しくお願ひします。

堀 湊子さん

9月にたまご班の山崎美幸さんが退職されました。
10月いっぱいではのぼの荘の本田キミさんが退職されます。
お疲れ様でした。



こんにちは! フロントア外販です!



梅野さん

高部さん

西島さん

大友さん

秋山さん

国本班

苫小牧方面は週1回1コースにしたので、どこにおじゃましても「待っていましたよ」と言っていただけなので、とても楽しい気分でお菓子を売っています。

また今年から、フロントアのアンテナショップ「茶連慈」で作っている焼きたてのパンもお菓子と一緒に持って出かけているのですが、やはりお客さんが一番楽しみに待っているのは、焼きたてで粉砂糖が真っ白くのっているシュークリームです。

現在苫小牧方面の外販の仕事に参加しているレギュラーメンバーは5名です。外販に出た時は帰りが遅くなって大変だと思うのですが、所員はみんな楽しみにしているようです。

フロントアの開設当時から外販にでかけている高部君は、毎週でも何日でも行きたい様子です。梅野さんは、頑張ってくたくさん売れた時に、思わず顔がほころんでくるのが微笑ましいです。大友さん、西島さんの2人は、普段お菓子作りをしているメンバーでもあるので、お菓子の扱い方なども慣れているので袋詰めする時も安心して見ていられます。

秋山さんは、5名の中で一番新しいメンバーで、とにかく教えられた通りに間違えないでやろうと張り切っています。



坂口さん

菅井さん

石井さん

小倉さん

杉中班

私は伊達・室蘭(火曜)、登別・白老(水曜)の4方面の外販を担当しており、それぞれ隔週で廻らせてもらってます。

利用者二人が、計算と袋詰め作業を分担して頑張っています。

久しぶりに行く母校での外販で、照れながらも近況を報告したり、初めて行く学校で思いがけず知っている先生と再会するなど、いろいろな出会いがあります。

石井君の時は、合計が千円の時「おお~ちょうどピッタリ千円!!」と喜ぶのを見て、他の人もちょうど千円になるように買い足してくれたり「今日はちょっと足りなかったか~」と声をかけてくれたり、お客さんとの会話がとても弾みます。

雨の日など大変なことや重い荷物で疲れることもありますが、行く先々の生徒さんがくれる元気なあいさつに励まされます。

大野重夫版画展と鈴木章講演会

文化を通して育ちあう会では、大野重夫さんの版画をデータ化して版画集を発行することにしました。その版画集を学校や図書館、公共施設に寄贈し沢山の町民に親んでもらいたいと考えたのです。そして、次の時代を担う子ども達の心の栄養になればと思うのです。白老中学校が荒れたとき、校内のいたるところが穴だらけでした。たくさんの備品も壊されました。しかし、校内に展示されていた、大野さんが寄贈した多くの版画はどれも傷つく事はありませんでした。文化は心にしみていくのだと思います。

白老の町を愛し、白老を描いた人はたくさんいました。しかし、その方が故人となると、作品も分散し足跡が見えなくなってしまいます。幸いにも版画は、同じ作品が数枚作られます。ですから大野重夫さんの作品は、そのほとんどが手元にありました。教員として多くの子ども達の美術教育に尽力してこられた大野先生の作品を画集として世に送り出すことによって、これからの子ども達の美術教育に少しでもお役に立つことができればと考え、この企画をたてました。

白老を愛する方々と大野先生の作品を愛するたくさんの人に支えられて版画集を発行できましたことに感謝申し上げます。

また、友人である、ノーベル化学賞受賞者の鈴木章先生がお忙しいなか白老まで来てくださりご講演くださることに会を代表してお礼申し上げます。

文化を通して育ちあう会 会長 有江則雄

版画展日 時 10月25日(金)～27日(日) 10:00～17:00

場 所 しらおい創造空間「蔵」(白老町本町1丁目7-5)

入場料 無料

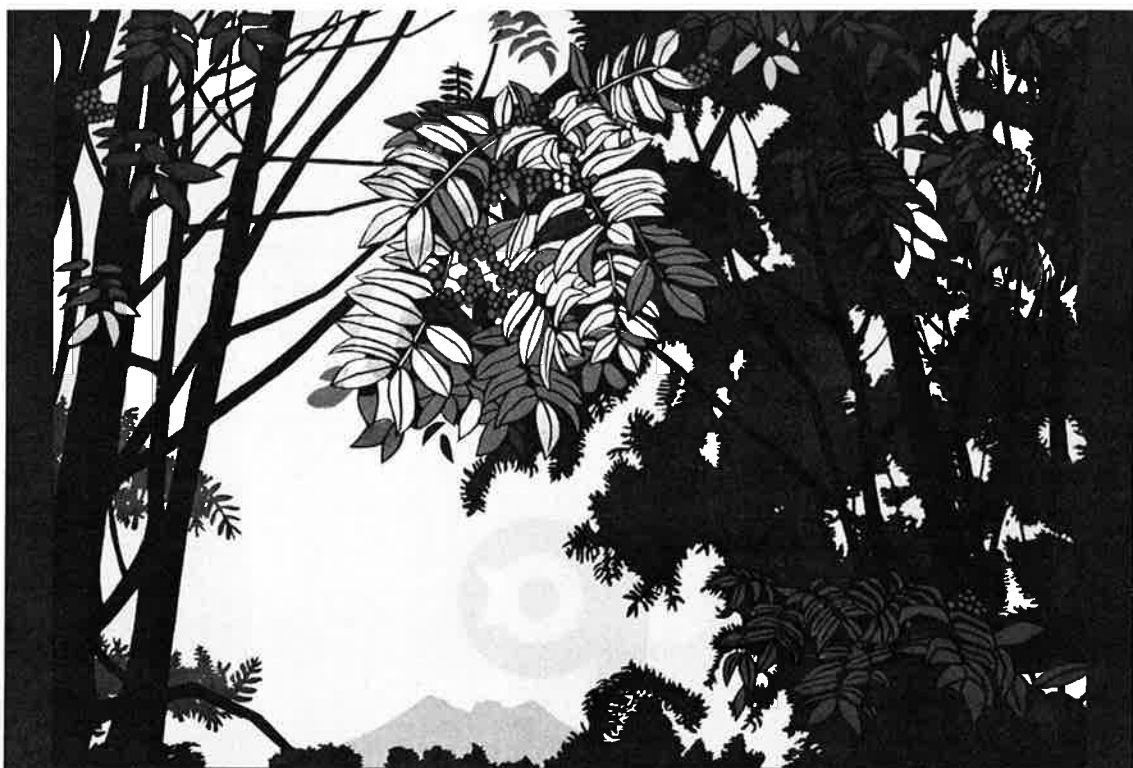
鈴木章講演会 10月27日(日) 15:00～16:00

「ノーベル化学賞を受賞して」

※入場は無料ですが、150名程度の会場ですので、講演会のみ入場整理券を喫茶「茶連慈」(萩野312～211)で15日より配布しています。先着100名です。

ノーベル化学賞を受賞した鈴木 章先生と大野重夫先生は小学校・中学校を鷗川で、高校は苫小牧東高校で同級生として過ごしました。その縁がありまして、今回お忙しい中にあっても講演を引き受けて下さいました。

グループホーム右田荘の入札で、鈴木ホームさんが引き受けて下さる事になりました。今年中にはグループホームができあがる予定です。



大野重夫 版画展

■10. 25(金)~27(日)10時~17時「蔵」1.2階展示室

■10. 27(日)15時~16時「蔵」1階催事場

ノーベル化学賞受賞

鈴木 章先生講演会 演題=ノーベル化学賞を受賞して

■主催=文化を通して育ちあう会■

当日は入場無料 整理券=先着100名様

お問い合わせ=フロンティア tel0144-83-3537

しらい蔵
創造空間



HSK ほほえみ

昭和48年1月13日 第三種郵便物認可
発行日 2013年10月10日発行(毎月10日発行)
HSK通巻番号499号
編集人/北海道白老郡白老町字萩野310-110
白老町手をつなぐ育成会 佐藤 春光
TEL 0144-83-3537
会報/205号
発行人/北海道障害者団体定期刊行物協会(HSK)
定価/1部100円(会費に含む)